

I 救急医療

1 一般目標 (GIO)

運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を修得する。

2 行動目標 (SBOs)

- ① 多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる
- ② 骨折に伴う全身的・局所的症状を述べることができる
- ③ 神経・血管・筋腱損傷の症状を述べることができる
- ④ 脊髄損傷の症状を述べることができる
- ⑤ 多発外傷の重症度を判断できる
- ⑥ 多発外傷において優先検査順位を判断できる
- ⑦ 開放骨折を診断でき、その重症度をはんだんできる
- ⑧ 神経・血管・筋腱の損傷を診断できる
- ⑨ 神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる
- ⑩ 骨・関節感染症の急性期の症状を述べることができる

II 慢性疾患

1 一般目標 (GIO)

適正な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性と特殊性について理解・修得する

2 行動目標 (SBOs)

- ① 変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する
- ② 関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変性疾患、骨粗鬆症、腫瘍の X 線、MRI、造影像の解釈ができる
- ③ 上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療方針をたてることができる
- ④ 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる
- ⑤ 理学療法の処方ができる
- ⑥ 症状、経過の記載ができる
- ⑦ 診断書の種類と内容が理解できる
- ⑧ 以下は自由選択時に経験できる
 - (ア) 神経ブロック、硬膜外ブロック指導医のもとで行うことができる
 - (イ) 関節造影、脊髄造影を指導医のもとで行うことができる
 - (ウ) 後療法的重要性を理解し適切に処方できる
 - (エ) 一本杖、コルセットの処方が適切にできる
 - (オ) 検査、治療行為に対するインフォームド・コンセントの内容を記載できる
 - (カ) 紹介状、依頼状を適切に書くことができる
 - (キ) リハビリテーション、義足、装具の処方、記録ができる